

2. 相談支援専門員とは ー総論・歴史・背景ー

2. 1 相談支援の目的

相談支援の目的は、障害のある人が人として尊厳を持ちながらその人らしく地域の中で暮らすための支援をすることとそれが実現できる社会をつくることです。

この目的は相談支援だけでなく、障害福祉全体が目指す方向性であり、様々な取り組みの歴史の上に成り立つものです。本章では、相談支援及び障害福祉の目的や制度の歴史を整理するとともに、当事者の取り組みやその歴史を確認します。

(1) 法の目的

① 前提のなる人権概念と法における規定

- ・日本国憲法
- ・障害者権利条約
- ・障害者基本法
- ・障害者総合支援法

(2) 日本の障害福祉制度の歴史

(3) 日本における当事者運動の歴史

① 概観

② 各分野・団体の概要と相談支援専門員に理解してほしいこと

- ・身体障害（肢体不自由）
- ・身体障害（視覚障害）
- ・身体障害（聴覚障害）
- ・知的障害
- ・精神障害
- ・発達障害
- ・難病
- ・高次脳機能障害

2. 2 相談支援専門員の業務とその遂行に必要な力 //H30年度推進事業における相馬先生原稿

(1) 相談支援専門員の業務

障害児者の個別的生活課題が多様化、複雑化しているということは、当然、相談支援専門員の業務内容についても多様で複雑なものになっていると言えます。しかし、相談支援専門員の業務内容は主に生活支援と地域づくりの2つに大別できると考えられます。そこで、生活支援と地域づくりの2つの視点で述べます。

① 生活支援

先に述べたように、生活モデルの視点に基づいたニーズ（以下、生活ニーズ）を理解し、その生活ニーズへの手立てを考え、実行すること、すなわち生活支援を行うことが相談支援専門員には求めら

れます。

具体的な生活支援の支援過程はケースワークやケアマネジメントが基本になります。ケースワークやケアマネジメントは、インテーク、アセスメント、ニーズ把握、介入、モニタリング、評価にいたる一連の流れで行われます。これは相談支援専門員と障害当事者の関係性の中で行われるものと言えます。

② 地域づくり

一方、相談支援専門員は障害当事者のみに働きかけるのではなく、環境への働きかけが重要な業務と言えます。それは個別相談から地域ニーズを抽出することから始まり、地域への働きかけも指します。これは、コミュニティワーク、地域社会の組織化とも言えます。コミュニティワークは地域社会を対象としていることから、地域社会のニーズ把握を行う必要があります、社会調査法を用いた調査によってなされることが多いです(小澤 2018)。このような調査によって明らかにされたニーズに対して、地域組織化、社会資源の開発、関係機関の連携等の具体的な対応を講じていきます。例えば、自立支援協議会を通して、地域の実情を把握し、その対応方法を協議し、対応していくといったことが相談支援専門員の業務の1つと言えます。

(2) 相談支援専門員の業務遂行に必要な力

社会福祉を構成する要素として、「価値を土台にして、その上に知識があり、それらをもとに方法・技能がある」といった考え方を参考にして、ここでは価値、知識、方法・技能について考えます(社会福祉士養成講座編集委員会 2010)。

① 価値

社会福祉において価値とは、社会福祉の実践のすべての側面に価値は内在していると言われていません(ブレンダ・デュボワ/カーラ・K・マイリー2017)。

ここでは以下の価値を例示としてあげます。これは相談支援専門員の基本姿勢と同一とすることができます。

- ① 個別性の重視
- ② 生活者視点、QOL の重視
- ③ 本人主体、本人中心
- ④ 自己決定(意思決定)への支援
- ⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目
- ⑥ 権利擁護
- ⑦ 多職種連携・チームアプローチ
- ⑧ 地域づくり(コミュニティワーク)

② 知識

相談支援専門員に求められる知識は幅広いものになります。例えば、関係性構築のための心理学等の理解や対象者の理解のための社会学等の理解があげられます。

また、障害について、医学モデルと社会モデルの双方の視点の知識が求められます。具体的には、医学モデルの視点で言えば、障害特性の知識があげられる。身体障害、知的障害といった障害の特性だけでなく、1人ひとりがどのようなことができるか、本人の中にある強みに着目し、力を引き出すこ

とを支援の基本におき、生活のしづらさや苦手としていることとの理解が必要です。一方、社会モデルの視点で言えば、制度や地域の資源等に関する知識があげられます。地域の資源については、障害福祉サービスは元より、サークルや地域の商店、地域住民等の様々な生活情報も重要であります。

③ 方法・技能

ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークといったソーシャルワークの方法については、実際に実践できることが求められます。また、これらの方法を統合して実践するジェネラリスト・アプローチが求められます。

この他に、面接や記録についての技能の獲得も重要です。面談者からの信頼を得るための面接技能や自らの支援内容を他者に伝えるための記録の技能の習得も求められます。